

レファレンス事例集紹介

人物編

佐賀県立図書館に寄せられたレファレンスの
中から、選りすぐりの事例を御紹介します。



Q.レファレンスって何？

A. 図書館職員が図書館の資料を活用して調査相談のお手伝いをし、資料や情報を提供するサービスです。

質問 馬場^{よりちか}頼周は何故龍造寺氏を討ち捕ったのですか？

回答 馬場氏は少弐氏の一門で、頼周（？～天文14年（1545年））は三根郡の綾部、中野城主でした。天文14年（1545年）には龍造寺家兼（剛忠・隆信祖父）の一族6人を神埼の祇園原で殺害しました。『九州治乱記』では頼周を「博学にして才智あり、忠心深く又下賤を憐れみし者なり。龍造寺の一家を討捕りし事は、主君に対して謂ある事なり。」と記しています。主君とは少弐氏のことです。これは龍造寺氏が主家少弐氏を裏切って敵対する大内氏に内通したためだと言われます。

参考文献

- ①『佐賀県大百科事典』
佐賀新聞社佐賀県大百科事典編集委員会／編
佐賀新聞社 1983年
p.682
- ②『佐賀の戦国人名志』
川上 茂治／著 佐賀新聞社
2002年 p.365-366
- ③『〔九州〕 治乱記 巻3,4』
p.91裏-114裏
【複編033-1-2】

質問 松浦の波多三河守^{ちかし}親と島原の有馬氏の関係について知りたいです。

回答 波多三河守親は、当時の島原城主・有馬^{よしさだ}義貞の実子とされています（諸説あり）。
先代の波多^{さこつ}壱岐守盛は、実子がいないまま急死してしまつたため、当初は壱岐にいた盛の甥の中から後継者が選ばれる予定でした。しかし、後継者をめぐる争いで、有力な後継者候補が二人も殺害されてしまいます。そこで盛の後室は、姻戚関係にある有馬義貞の第三子・藤童丸（後の波多三河守親）を波多氏の当主に据えました。

参考文献

- ①『松浦党研究 No.43』
松浦党研究連合会／編
松浦党研究連合会
2020年 p.14-16
- ②『寛政重修諸家譜 第12』
高柳 光寿（ほか）／編
続群書類従完成会
1980年 p.190

質問 武雄領主鍋島^{しげはる}茂昌と佐賀藩士島^{よしたけ}義勇には、血縁関係がありますか？

回答 鍋島茂昌の母・智恵は、島義勇の父・島市郎右衛門有師の妹にあたるため、二人は従兄弟になります。明治7年（1874年）2月13日、義勇は武雄に来て茂昌に面会しました。その翌日、義勇から茂昌の実弟である後藤十郎（保明）に書簡を送ります。そこには、茂昌を憂国党の党首に担ぎ出そうとする内容の記述があり、茂昌の佐賀軍への参加を再度促すよう要請している意図が読み取れます。

参考文献

- ①『明治150年
鍋島茂昌と羽州戦争』
武雄市図書館・歴史資料館／編
武雄市図書館・歴史資料館
2017年 p.22（系図）
- ②『佐賀の乱と武雄』
武雄市図書館・歴史資料館／編
武雄市図書館・歴史資料館
2017年 p.45,93

質問

かつやめいひん
勝屋明浜はどこの塾長をしていましたか？

回答

勝屋明浜は、江戸時代後期の儒学者広瀬淡窓^{たんそう}が創始した日田の私塾「咸宜園（かんぎえん）」の最後の塾長です。勝屋家は代々学問と武門の両道にわたる家柄で、藩士として鹿島鍋島家に仕えていました。明浜は父の感化を受けて学問を志し、独力で勉学に励むことを決心して日田の咸宜園へ入塾しました。退塾後、一時佐賀で私塾を開いていましたが、明治29年（1896年）5月より日田に招かれ、塾長として咸宜園の再興に尽力しました。

参考文献

- ①『国史大辞典 第3巻』
国史大辞典編集委員会／編
吉川弘文館 1983年
p.785
- ②『佐賀県教育史 第4巻』
佐賀県教育史編さん委員会／編
佐賀県教育委員会 1991年
p.108
- ③『鹿島の人物誌』
鹿島市史執筆委員会／編
鹿島市 1987年 p.29-30

質問

らんてん
谷口藍田とフルベッキに交流はあったのですか？

回答

谷口藍田は有田生まれ。藍田の名前は訓読みすると「あいた」。「有田」に似ていることから名付けたとも言われます。また鹿島藩最後の藩主鍋島直彬^{なおよし}とともに鹿島の教育に尽力したことで知られています。慶応元年（1865年）藍田44歳、フルベッキ（致遠館教授）と京都で会見。藍田はフルベッキから西洋事情や英語を学び、フルベッキも藍田から和漢学や日本語を学びました。同年藍田は長崎に塾を開き、二人は交友を重ねていきました。

参考文献

- ①『儒学者谷口藍田』
浦川 晟／著
明德出版社 2014年
p.88-89, 244
- ②『谷口藍田』
井手 誠二郎／著
シヨップアリタ 1995年
p.11-12, 24
- ③『佐賀新聞 平成30年7月7日』
13面

質問

佐賀県で行われた大隈重信の県民葬について知りたいです。

回答

大隈重信は、大正11年（1922年）2月10日に死去しました。同年2月17日に日比谷公園で国民葬が営まれ、遺体は文京区の護国寺に埋葬されました。同年2月27日には、佐賀市にて県民葬が営まれ、譲り受けた遺髪は大隈重信旧宅など大隈重信のゆかりの地を巡り、その後赤松町の龍泰寺に埋葬されました。会葬者は実に3万人を超え、多くの人々が別れを惜しみました。

参考文献

- ①『佐賀新聞 大正11年2月16日』
2面
- ②『佐賀新聞 大正11年2月28日』
3面
- ③『大隈侯八十五年史 第3巻』
大隈侯八十五年史会／編
原書房 1970年
p.639-642, 891

佐賀県立図書館のホームページで、レファレンス事例を公開しています。
ぜひご覧ください。

「佐賀県立図書館ホームページ」→「レファレンス（調査・相談）」の
「事例集」をクリック → 「キーワード」等を入力

[<https://www2.tosyo-saga.jp/kentosyo2/reference/search.do>]

【問い合わせ】

佐賀県立図書館
司書ネットワーク課
相談・サービス担当
☎0952-24-2900

✓CHECK!

